



2023年9月14日

マツダ、「MAZDA MX-30 Rotary-EV」の予約受注を開始

—EVとシリーズハイブリッドの強みを融合し、EVとしての使い方を拡張した今までにない新しい電動車—

マツダ株式会社(以下、マツダ)は、マツダ独自のロータリーエンジンを発電機として使用する今までにない新しい電動車として「MAZDA MX-30 Rotary-EV(エムエックス サーティー ロータリー イービー)」を、全国のマツダの販売店を通じて、本日より予約販売を開始します。発売は、11月を予定しています。



MAZDA MX-30 Rotary-EV Natural Monotone

MX-30は、マツダの電動化を主導するモデルとして、これまでにバッテリーEVとマイルドハイブリッドモデルを国内に導入しました。「わたらしく生きる」をコンセプトに、純粹で心地よい走り、親しみやすさを感じるデザインや、温かみのある素材使いによる心がととのう室内空間などにより、創造的な時間と体験をお客さまに提供してきました。

MX-30 Rotary-EVは、MX-30の基本的な提供価値はそのままに、EVとしての使い方を拡張したシリーズ式プラグインハイブリッドモデルです。その走行の全てをモーターで駆動し、日常の幅広いシーンにおいてバッテリーEVとして使える107kmのEV走行距離*1を備え、ロータリーエンジンによる発電によってさらなる長距離ドライブにも対応しています。

その発電機として採用したのが、世界でマツダだけが量産化に成功したロータリーエンジンです。新たに開発した発電用ロータリーエンジン*2は、必要とされる出力性能を省スペースで実現できるロータリーエンジンの特徴を活かし、高出力モーター、ジェネレーターと同軸上に配置してモータールームに搭載しています。そして、このコンパクトな電動駆動ユニットと、17.8kWh*3のリチウムイオンバッテリー、50Lの燃料タンクを組み合わせることで、独自のシリーズ式プラグインハイブリッドシステムを実現しました。

また普通・急速両方の方式に対応した充電機能や1,500W*4の給電機能、使用シーンに合わせて選択できる「EVモード」「ノーマルモード」「チャージモード」の3つの走行モードを備えるなど、お客さまのアクティブなカーライフをサポートします。

さらに、MX-30 Rotary-EV には、ロータリーエンジンの復活を象徴する「Return」(リターン)の頭文字から取った「R」をネーミングに採用した、特別仕様車「Edition R」(エディション アール)を設定しています。黒基調の外板色および内装色としながら、ルーフサイドにはマツダ初の乗用車である「R360 クーペ」のルーフ色を復興したマローンルージュメタリックを差し色として採用しています。また、フロアマットやシートのヘッドレストには、ローターの形状を模したバッジやエンボス加工などの専用デザインを施しました。

マツダは、今後も「ひと中心」の価値観のもと「走る喜び」を進化させ続け、お客さまの日常に移動体験の感動を創造し、「生きる喜び」をお届けしていくことを目指してまいります。

■ 「MX-30 Rotary-EV」の商品特徴

● EVとシリーズハイブリッドの強みを融合し、EVとしての使い方を拡張した新しい電動車

1) 普段はEVとして使えて、ロータリーエンジンの発電で長距離移動も可能

- ・ 「EV として使う」ことを主体とする考え方のもと、お客さまの使用実態に関する調査結果を踏まえ、EV 走行距離*1107km を確保
- ・ 発電機としてロータリーエンジンを搭載。「省スペース性」を活かし、薄型で高出力なジェネレーター、最高出力 125kW を発生する高出力モーターと組み合わせて同軸上に配置し一体化することで、室内空間を犠牲にすることなく、モータールームに搭載。
- ・ このコンパクトな電駆ユニットと、17.8kWh*3 のリチウムイオンバッテリー、50L の燃料タンクとを組み合わせることにより、普段はEVとして使えるEV 航続距離を持ちながら、さらなる長距離ドライブも、ロータリーエンジンによる発電で充電の不安なくお楽しみいただけます。

2) モーター駆動による純粋で心地の良いドライビング体験

① シリーズ式 PHEV で走り・利便性・環境を両立

高速道路や登坂時などにおいて、ロータリーエンジンで発電しているときも、すべての走行シーンをモーターで駆動します。また、急な加速で大きな出力が必要な場面*5 や、目的地で給電機能を使うためにバッテリーの残量を温存しておきたい時、あるいは長距離移動を行う時などは、走行中にロータリーエンジンによる発電を行い、バッテリーに必要な電力を供給。

環境、走り、電動車としての利便性をうまくバランスさせ、気軽に、身軽に環境に配慮した使い方が可能になりました。

② 選択式の3つのモードでより使いやすく

走行シーンや使用用途に応じて選択できる「ノーマルモード」「EV モード」「チャージモード」の3つのモードを設定。

「EV モード」	できるだけ長くEVとして走行を続けたいときに使うモード
「ノーマルモード」	ロータリーの発電電力との組み合わせで走りの良さを提供するモード
「チャージモード」	夜間の住宅街などの静かに走りたいシーンやキャンプなどでの給電機能の使用に備えて、必要なバッテリー残量を確保しておきたいときに使うモード

③ EVモデル同等の「人馬一体」の走り

EV モデルで培った車両運動制御技術を適用することで、全方位につながったシームレスな車両挙動、常に路面に吸い寄せられているかのような落ち着きのある走りの質感、直感的に扱って手足のように動かせるコントロール性を実現しています。

3) 多様なライフスタイルをサポートする充電・給電性能

① 充電性能

普通(AC)充電と急速(DC)充電の両方の充電方式に対応。外出先でも気軽に充電ができ、スマートフォンアプリ「MyMazda」を利用*6して、クルマから離れた場所でも充電状態の確認が可能。

② 給電性能

「V2L」(Vehicle to Load)

- 用途に合わせて使い分けられる2種類のAC電源を設置*4。
荷室には、1,500Wまで対応可能なAC電源を設置。
フロントコンソールには、走行中でも使用可能な150WのAC電源を設置。
- 可搬型外部給電器(別売*7)を使うことで、3,000Wまたは4,500Wまでの給電が可能。

「V2H」(Vehicle to Home)

- 建物に設置した充放電(別売*8)に接続することで、クルマから建物に電力を供給し、万が一の停電時も電気を使用することが可能。災害時においては、17.8kWh*3のバッテリー満充電と燃料タンク満タンのロータリーエンジンによる発電を組み合わせ、約9.1日分*9の電力供給が可能。

4) デザイン

① ナチュラルなブラック内装を追加

これまでのホワイト内装「Modern Confidence」とブラウン内装「Industrial Classic」の2色に加え、新たにブラック内装「Natural Monotone」を追加。今までのMX-30のイメージにない、シャープなスタイリッシュさや、ニュートラルでアクティブなライフスタイルを提案します。

② 特別仕様車「Edition R」

マツダが世界で初めて量産化に成功したロータリーエンジン。それは、マツダの歴史において「飽くなき挑戦」を象徴する特別な存在です。2012年の量産終了から11年の歳月を経て、ロータリーエンジンは、マツダの電動化をリードするモデルであるMX-30によってその可能性を拡げ、発電機として復活しました。このロータリーエンジンの復活、すなわち「Return」の意味を込めた特別仕様車である「Edition R」をご用意しています。

■ 「MX-30 Rotary-EV」の主要諸元

エンジン	種類	水冷1ローター
	排気量(L)	0.830
	最高出力(kW/rpm)	53/4,500
	最大トルク(N・m/rpm)	112/4,500
モーター	最高出力(kW)	125
	最大トルク(N・m)	260
バッテリー容量(kWh)*3		17.8
タンク容量(L)		50
ハイブリッド燃料消費率(km/l)*10 WLTCモード(国土交通省審査値)*11		15.4
EV走行換算距離(等価EVレンジ)*1(km) WLTCモード(国土交通省審査値)*10		107

■ 「MX-30 Rotary-EV」の購入体験^{*12}

● マツダスカイプラン(残価設定型クレジットプラン)

お客さまに MX-30 Rotary-EV を選択肢の 1 つとしてご検討いただけるように、エンジン車同等の残価率を設定。

	3年プラン	4年プラン	5年プラン	6年プラン
残価率	55%	43%	35%	30%

● 長時間モニター試乗

ご購入前に、お客さまに MX-30 Rotary-EV の生活をご体感いただける機会をご用意。

● バッテリーケアアドバイス

コネクティッドサービスを活用して、バッテリー状況をモニタリングし、バッテリーに優しいクルマの使い方をアドバイス。

■ 「MX-30 Rotary-EV」に関する情報サイト

● 「MX-30 Rotary-EV」 車種サイト

https://www.mazda.co.jp/cars/mx-30/?car_id=mx-30rotaryev

(2023年9月14日 11時公開予定)

■ 「MX-30 Rotary-EV」のメーカー希望小売価格(消費税込み)

4,235,000円 ～ 4,917,000円

以上

-
- *1: 「EV 走行換算距離(等価EVレンジ)」。定められた試験条件下での数値であり、実際の走行条件等により異なります。また、ドライバーが急加速を意図してアクセルペダルをある一定の位置以上に深く踏み込んだ場合(一般的な AT 車におけるキックダウンスイッチの機能に相当)などは、必要な出力を得るために発電システムが作動して発電を行うことがあります。
- *2: エンジン型式 8C。
- *3: 自社調べ。
- *4: 「Rotary-EV」グレードはメーカーオプション設定、その他のグレードは標準装備。
- *5: ドライバーが急加速を意図してアクセルペダルをある一定の位置以上に深く踏み込んだ場合など(一般的な AT 車におけるキックダウンスイッチの機能に相当)
- *6: コネクティッドサービスはマツダ株式会社が提供するサービスです。サービスの利用にあたっては、別途店頭ご契約手続き及びサービス開始手続きが必要となります。
- *7: 可搬型外部給電器を介した給電を行うには、別売りの「可搬型外部給電器」が必要です。
- *8: V2H 充放電設備を介した給電を行うには、別売りの「V2H 充放電設備」が必要です。
- *9: 当社調べにもとづき、一般的な家庭での 1 日の使用電力量を 10kWh とした場合の試算です。V2H 機器等の変換効率は含みません。
- *10: ハイブリッド燃料消費率は、定められた試験条件下での数値であり、実際の走行条件等により異なります。
- *11: WLTC モード:市街地、郊外、高速道路の各走行モードを平均的な使用時間配分で構成した国際的な走行モード。
- *12: 詳細については販売店までお問合せください。